

## 第7章 目標指標の設定と計画の進行管理に関する事項

---

## 第7章 目標指標の設定と計画の進行管理に関する事項

本章では、計画策定後の適切な進捗管理を行うため、目標指標の設定及び進行管理に関する考え方を示します。

### 1. 目標指標設定の基本的な考え方

- ・立地適正化計画では、計画の必要性や妥当性を客観的かつ定量的に提示するため、本計画にて定めたまちづくり方針(ストーリー)を実現するための「定量的な目標値」を設定するとともに、目標達成により「期待される効果を定量化」することが求められます。
- ・評価指標と目標値は、居住誘導・都市機能誘導及び公共交通の維持・充実を図るための施策の展開により、まちづくりの方針(ストーリー)の達成状況を分析・評価する観点から設定します。

### 2. 定量的な目標と期待される効果

- ・前項の目標指標設定の基本的な考え方に基づき、目標値を設定します。  
なお、本計画の目標年次である20年後(平成49年(2037年))における目標値を設定します。

#### まちづくりの方針(ストーリー)

#### ① 選ばれるまちになるための福生駅をはじめとした駅周辺の拠点性強化

##### 【誘導施策の方針】

- ◆ 駅周辺における都市機能の立地促進
- ◆ 福生駅を中心とした駅周辺の拠点性強化

#### 【駅周辺における都市機能の立地促進】

##### 定量的な目標値① ■ 誘導機能の立地促進(誘導機能立地数の増加)

- ・都市機能誘導区域内(市街化区域内の駅周辺に5箇所設定)において設定した誘導施設が維持・増加していることを確認します。(各拠点の誘導施設については第4章 P43 参照)

目標指標	現況値(平成29年)	目標値(平成49年(2037年))
福生駅周辺を中心とする拠点	4機能	7機能
拝島駅周辺を中心とする拠点	1機能	2機能
牛浜駅周辺を中心とする拠点	2機能	2機能
熊川駅周辺を中心とする拠点	0機能	2機能
東福生駅周辺を中心とする拠点	2機能	2機能

#### 【「このまちが好き」と思えるまちづくり】

##### 期待される効果①-1 ■ 都市機能に関する市民満足度の向上

- ・都市機能の誘導等により利便性が向上し、都市機能に関する市民の満足度が増加していることを確認します。

効果指標	現況値(平成29年度)	目標値(平成49年度(2037年度))
都市機能に関する市民満足度	11%	現況値以上

まちづくりの方針(ストーリー)

- ①選ばれるまちになるための福生駅をはじめとした駅周辺の拠点性強化  
**【誘導施策の方針】**  
 ◆駅周辺における都市機能の立地促進 ◆福生駅を中心とした駅周辺の拠点性強化

**【福生駅を中心とした駅周辺の拠点性強化】**

**定量的な目標値②** ■福生駅西口再開発事業の推進

・福生駅西口において検討が進められている、集客力のある公共施設の設置を伴う再開発事業が完成していることを確認します。

目標指標	現況値 (平成 29 年)	目標値 (平成 49 年(2037 年))
福生駅西口再開発事業の推進	再開発準備組合の発足	再開発事業の完成

**【福生駅周辺の拠点性向上】**

**期待される効果②-1** ■福生駅周辺における歩行者数の増加(1日当たり)

・都市機能の誘導等により回遊性・利便性が向上し、福生駅周辺の歩行者数が増加していることを確認します。

効果指標	現況値 (平成 29 年 12 月)	目標値 (平成 49 年(2037 年))
福生駅周辺の歩行者数	15,885 人	現況値以上

**【福生駅周辺の拠点性向上】**

**期待される効果②-2** ■福生駅乗車数及び福生駅発着のバス利用者の増加(1日当たり平均)

・都市機能の誘導等により、福生駅乗車数及び福生駅発着のバス利用者が増加していることを確認します。

効果指標	現況値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 49 年度(2037 年度))
福生駅乗車数	16,457 人	現況値以上
福生駅発着のバス利用者数	4,512 人	現況値以上

**【更なる利便性向上に伴う資産価値の向上】**

**期待される効果②-3** ■福生駅西口における地価公示価格の上昇率増加・下降率抑制

・都市機能の誘導や再開発事業の進捗等により、福生駅西口における地価公示価格の変動率(現況値と目標値を比較)が、市内における他のポイント平均値の変動率より上昇率が高い、もしくは下降率が低いことを確認します。

効果指標	現況値 (平成 29 年 1 月)	目標値 (平成 49 年(2037 年)1 月)
地価公示価格の変動率	福生駅西口: 334,000 円/m <sup>2</sup>	他のポイント平均値と比較して、福生駅西口における増加率が高い、もしくは減少率が低い

はじめに

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

まちづくりの方針(ストーリー)

②高齢世代や子育て世代が安心して暮らせる住環境形成

【誘導施策の方針】

◆子育て世代の定住促進・誘導 ◆高齢化社会への対応 ◆優良な都市基盤と住環境の維持

【子育て世代の定住促進】

定量的な目標値③ ■子育て世代向け住宅の供給促進

・「優良住宅取得推進事業」・「東京都子育て支援住宅認定制度」の活用等による住宅供給戸数が増加していることを確認します。

目標指標	現況値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 49 年度(2037 年度))
当該制度の活用による住宅供給戸数	13 戸	累計 200 戸

【「子育てするならふっさ」として選ばれるまちづくり】

期待される効果③-1 ■15歳未満人口の減少抑制

・各種の子育て支援に資する施策の展開等により、福生市における15歳未満人口の減少率(現況値と目標値を比較)が、西多摩地域平均値の減少率より低いことを確認します。

効果指標	現況値 (平成 29 年 1 月)	目標値 (平成 49 年(2037 年)1 月)
福生市における15歳未満人口	6,075 人	西多摩地域の平均値と比較して減少率が低い

【子育て世代の定住促進】

定量的な目標値④ ■待機児童0人の継続

・待機児童解消に向けた各種事業の実施により、継続的に待機児童0人の状態が続いていることを確認します。

目標指標	現況値 (平成 29 年 4 月)	目標値 (平成 49 年(2037 年)4 月)
待機児童数	0人	0人

【「子育てするならふっさ」として選ばれるまちづくり】

期待される効果④-1 ■15歳未満人口の減少抑制(再掲)

・各種の子育て支援に資する施策の展開等により、福生市における15歳未満人口の減少率(現況値と目標値を比較)が、西多摩地域平均値の減少率より低いことを確認します。

効果指標	現況値 (平成 29 年 1 月)	目標値 (平成 49 年(2037 年)1 月)
福生市における15歳未満人口	6,075 人	西多摩地域の平均値と比較して減少率が低い

まちづくりの方針(ストーリー)

②高齢世代や子育て世代が安心して暮らせる住環境形成

【誘導施策の方針】

- ◆子育て世代の定住促進・誘導 ◆高齢化社会への対応 ◆優良な都市基盤と住環境の維持

【高齢化社会への対応】

定量的な目標値⑤ ■介護予防事業参加者の増加

・高齢者の健康づくりや居場所創出により、介護予防事業への年間参加者が増加していることを確認します。

目標指標	現況値(平成28年度)	目標値(平成49年度(2037年度))
介護予防事業参加者数	970人	現況値以上

【高齢者が安心して住み続けられる住環境の形成】

期待される効果⑤-1 ■介護認定率の減少

・介護予防事業の実施等により、健康な高齢者が増加し、介護認定率(65歳以上)が減少していることを確認します。

効果指標	現況値(平成28年度)	目標値(平成49年度(2037年度))
介護認定率	13.8%	現況値以下

【優良な都市基盤と住環境の維持】

定量的な目標値⑥ ■都市計画道路整備率の増加

・安心安全な住環境の形成に向けて、防災性の向上に寄与し、バリアフリー化や歩車分離・電線類の地中化等整備を伴う、都市計画道路の整備率が増加していることを確認します。

目標指標	現況値(平成29年度)	目標値(平成49年度(2037年度))
都市計画道路の整備率	77%	92%

【「このまちが好き」と思えるまちづくり】

期待される効果⑥-1 ■都市基盤に関する市民満足度の向上

・都市計画道路等の整備により、安心安全な住環境が形成され、都市基盤に関する市民の満足度が増加していることを確認します。

効果指標	現況値(平成29年度)	目標値(平成49年度(2037年度))
市民満足度	19%	現況値の増加

まちづくりの方針(ストーリー)

③市民の日常生活を支え、拠点へのアクセス性を高める公共交通ネットワークの充実  
【誘導施策の方針】

◆公共交通ネットワークの充実

【公共交通ネットワークの充実】

定量的な目標値⑦ ■「福祉バス」利用者の増加

・増便やルート変更等により、「福祉バス」利用者が増加していることを確認します。

目標指標	現況値（平成 28 年度）	目標値（平成 49 年度(2037 年度)）
福祉バス利用者数	115,026 人	現況値以上

【公共交通サービス水準の維持】

期待される効果⑦-1 ■福祉バス利用圏域内人口カバー率の増加

・公共交通の充実や沿線への居住誘導等により、福祉バス利用圏域内の人口カバー率が増加していることを確認します。

効果指標	現況値（平成 27 年）	目標値（平成 47 年(2035 年)）
福祉バス利用圏域内人口カバー率	96.5%	現況値以上

※福祉バス利用圏域内人口カバー率:福祉バス停留所より半径 300mの利用圏域内の人口を、福生市の総人口で除した値。

※現況値の年次については、国勢調査のデータを使用しGIS上での人口按分を要するため、平成 27 年を現況値とする。それに伴い、目標年次は 20 年後の平成 47 年(2035 年)となる。

【「このまちが好き」と思えるまちづくり】

期待される効果⑦-2 ■公共交通に関する市民満足度の向上

・公共交通の充実等により、公共交通に関する市民の満足度が増加していることを確認します。

効果指標	現況値（平成 29 年度）	目標値（平成 49 年度(2037 年度)）
市民満足度	15%	現況値以上

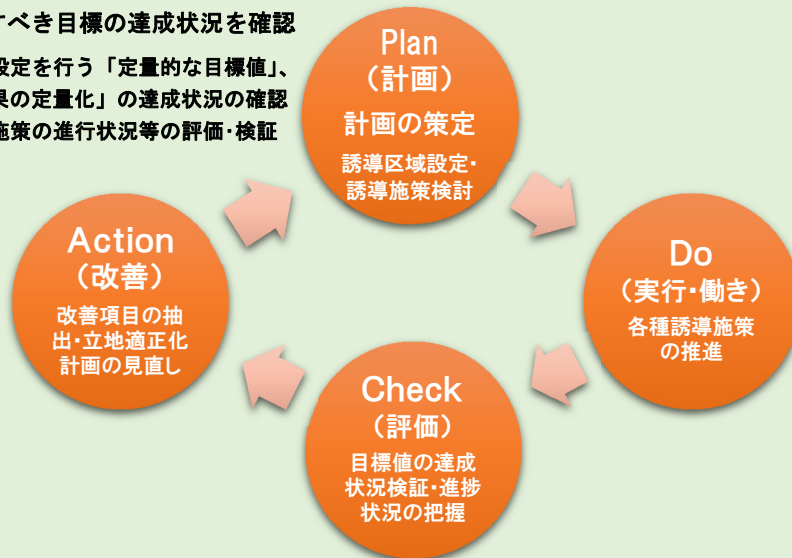
### 3. 計画の管理と見直しについて

- ・本計画の計画期間内(平成 30 年度(2018 年度)～平成 49 年度(2037 年度))においては、施策の進行状況や社会的な変化も予想されるため、上位計画や関連計画の見直しとの整合を図りつつ、おおむね5年ごとに目標値の達成状況の評価を行い、本計画の進捗状況や妥当性等を精査、検証していきます。  
検証の結果、必要に応じて適宜計画の見直しを実施していきます。
- ・具体的には、下記のPDCAサイクルの考え方に基づき、適切な進捗管理を行いつつ、目標の達成を目指していきます。
- ・目標値については、施策推進において一定の効果が得られると想定される 10 年後(平成 39 年(2027 年))にて中間評価を行い、実効性のある計画の進行・管理を行っていきます。

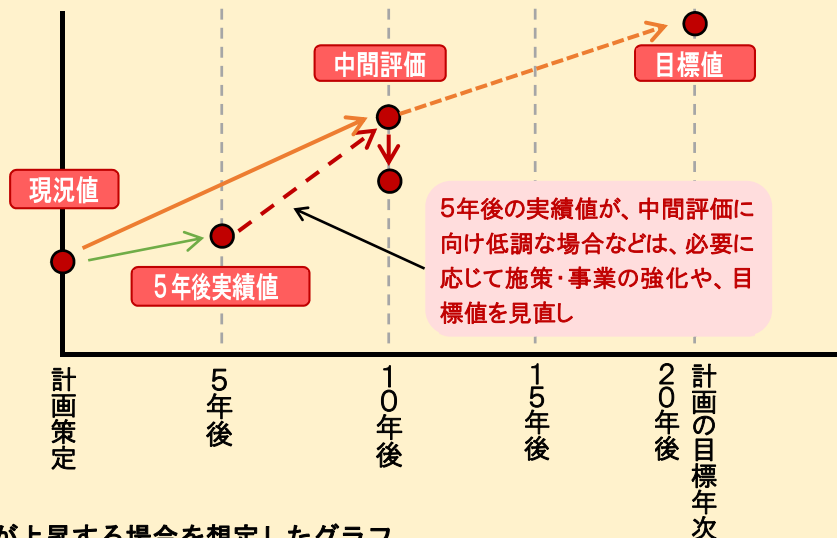
#### 【PDCAサイクルによる適切な進捗管理】

本計画の目指すべき目標の達成状況を確認

- ◆Check1：今回設定を行う「定量的な目標値」、「期待される効果の定量化」の達成状況の確認
- ◆Check2：誘導施策の進行状況等の評価・検証



#### 【評価・検証のイメージ】



※目標値が上昇する場合を想定したグラフ